

令和4年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	294

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	観光振興事務
事業目的	観光に関する各種情報をわかりやすく整備し、犬山への誘客増を図るとともに来訪後の利便性と満足度を高める。
事業内容	<p>●主な事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・犬山市の観光情報ホームページにおいては、旬な情報提供を心がけ、見やすさ、わかりやすさに配慮しながら管理。 ・公共駐車場の空き状況や犬山城の待ち時間表示等、観光客に必要な情報をリアルタイムで正確に提供。 ・各種イベントなどにポスター等の広告物を提供し、観光振興を図る。 ・観光施策事業推進に資するデータや情報等収集のため、情報誌（観光新聞等）を購入。 <p>●主な決算の内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・犬山市観光情報ホームページ管理業務委託料 660,000円 ・通信運搬費（観光パンフレット郵送代） 12,780円 ・情報誌定期購入代（観光経済新聞購読料） 14,300円
事業の成果・効果	観光振興・観光宣伝において、犬山観光情報ホームページは、観光客に対し犬山の魅力を伝え、来訪意欲を喚起する点において極めて重要であり、「犬山観光の玄関口」という位置づけである。ホームページ内ではイベント告知をはじめ、公共駐車場利用状況など、様々な観光に関する情報を積極的に発信しており、旬な情報提供を心がけ常に見やすさ、わかりやすさに配慮しながら情報更新するなど、観光振興における重要な役割を十分に全うしている。

II : 個別事業内訳

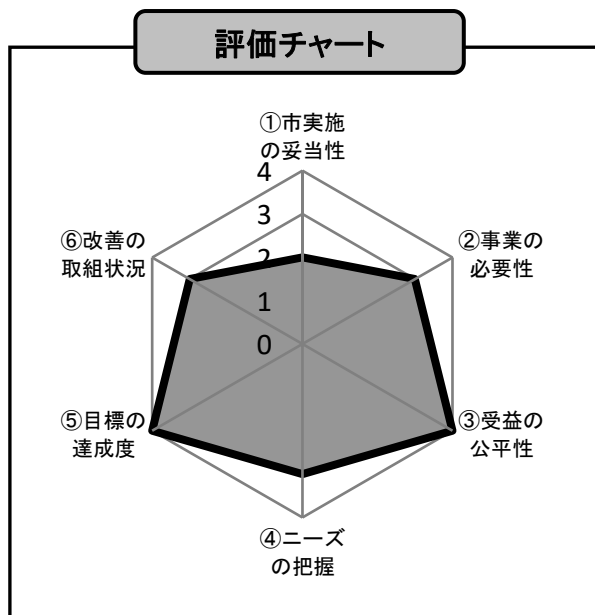
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
観光振興事務	818	0	818	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	818	0	818	100%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R3決算	R4決算	R5予算
		796	818	849
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	796	818	849
一般財源の割合		100%	100%	100%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	2	市、観光協会、民間事業者で連携して実施しており、民間だけでは多様で充実したサービスの提供は困難である。
②事業の必要性	3	犬山の観光振興を推進することで、市の認知度向上、域内消費額の増加による地域経済活性化、及び郷土愛醸成に繋がる重要な事業である。
③受益の公平性	4	事業の主たる対象は不特定多数の観光客であり、特定の個人・集団に偏ることなく、公平性は保たれている。また、ホームページ等で発信される内容は観光客だけでなく、すべての市民に対しても楽しく有益な情報提供になるよう努めている。
④ニーズの把握	3	市、観光協会に寄せられる意見・提案を参考にニーズ把握に努めている。また城下町を中心とした住人、事業者等にも意見を聴取し、その集約に努めている。
⑤目標の達成度	4	犬山観光の情報をホームページにて随時・わかりやすく発信することができ、当初の目的は達成した。
⑥改善の取組状況	3	観光振興の事務の効率化と、費用対効果を考えつつ、コスト意識を持ち実施している。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和4年度に見直しを実施した事項	ホームページに関し、内容の精査を随時行い、情報の鮮度や内容の深まり・充実・精度の向上を心がけ犬山の観光情報の玄関口として機能するよう、市・協会で議論・工夫して魅力的な情報発信ができた。
令和5年度に見直しを実施している事項	ホームページに関し、内容の精査を随時行う。情報の鮮度や内容の深まり、充実を心がけることで観光客にとっても、市民にとっても理解と関心、及び親和性を高める犬山の観光情報の玄関口となるよう、精度を高める。
今後見直しを検討する事項	細かな催事情報を出来る限り集約して発信できるスキームの構築を検討する。城下町だけでなく、市域全体の観光に関する情報を随時適切に提供できるようSNSの活用も含め体制についても検討を進める。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和4年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
犬山観光情報の内容の更なる充実と鮮度の維持向上。	ホームページの内容の精査を適宜進めることに注力する。情報の鮮度や内容の深まり、充実を心がけることで、観光客にとっても、市民にとっても理解と関心、親和性を高める犬山の観光情報の玄関口となるよう、精度を高めていく。市や観光協会主催事業以外の情報集約と発信について検討を行う。

令和4年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	296

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	観光協会運営補助
事業目的	観光振興に必要な知見とノウハウを有する犬山市観光協会に対して運営費補助を実施することで、近傍地から広域にかけての観光振興や海外を含むメディアセールスを実施。コロナ後におけるインバウンド需要への迅速な対応や国内誘客を推進する。また、持続可能な観光地を目指し課題改善に取り組む「SDGs観光まちづくり」を市とともに推進・牽引する役割を担う。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○犬山の観光推進に関する体制の確立 <ul style="list-style-type: none"> ・観光振興のため、観光協会の人件費の一部を補助することで事務局体制を維持・強化し、新たな観光戦略への挑戦、近傍～広域圏の観光誘客、招聘等、観光を通じたまちづくり等、法人ならではのスピード感と機動力を活かした観光推進を実現する。 ●主な決算の内訳 <ul style="list-style-type: none"> ・犬山市観光協会運営補助金 26,453,061円
事業の成果・効果	(一社)犬山市観光協会は、信頼性、柔軟性、旅行会社経験者の専門的知識等、組織力を活かして観光振興を進めており、市という公共の団体だけでは成し得ない宣伝・営業活動を行うことができている。このため幅広い事業展開を可能にしており、コロナ禍からの本格的な回復に伴うインバウンド需要への適切な対応やメディアへの掲出も頻度高く実現することで多くの観光誘客を実現しており、現在の犬山観光の核としての役割を担っている。

II : 個別事業内訳

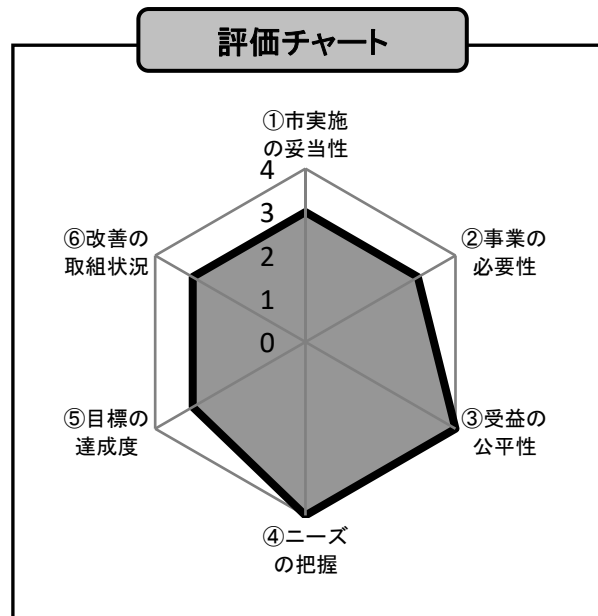
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
観光協会運営補助	26,454	0	26,454	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	26,454	0	26,454	100%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R3決算	R4決算	R5予算
		26,413	26,454	27,530
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	26,413	26,454	27,530
一般財源の割合		100%	100%	100%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	観光協会は、市単独では実施不可能な観光宣伝・誘客という組織としての迅速な対応を実現するために必要不可欠であり、公益的な役割も果たしているが、組織として安定し持続可能な体制とするには、市が運営を支援する必要がある。
②事業の必要性	3	犬山の観光施策を推進することで、市の認知度向上、域内消費額の増加による地域経済活性化、及び郷土愛醸成に繋がる重要な事業であり、中心的役割を担う協会の存続は必要性がある。
③受益の公平性	4	協会への補助を通じて不特定多数の観光客への利便性向上に資するものであり、事業効果としての公平性は保たれている。また、観光振興、観光まちづくりにより、すべての市民に対しても有益な取組みとなるよう努めている。
④ニーズの把握	4	城下町や内田地区等での地区住民との意見交換や、事業者への宣伝事業説明会等を通じて、課題の把握と共有、改善のための提案・実践に努めている。
⑤目標の達成度	3	一般社団法人としての責任感、使命感を持って観光宣伝事業や自主事業等を行い犬山観光を前進させている。
⑥改善の取組状況	3	事業の妥当性、経済性等を考慮し実施している。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和4年度に見直しを実施した事項	令和3年度末に策定した「犬山市観光戦略」に基づき、協会の役割・事業内容の精査を行った。特にコンテンツ造成やSDGsを意識した持続可能な観光地づくりについて、在り方の検討を開始することができた。
令和5年度に見直しを実施している事項	観光コンテンツを市と観光協会が連携し企画・造成を進める。また、持続可能な観光まちづくりについても関係者を巻き込みながら取組みを強化する。将来において現在以上に観光協会が観光振興の中核となるよう、役割・内容・組織体制も含め精査・検討を進める。
今後見直しを検討する事項	観光宣伝やインバウンド需要の開拓及び新規の観光コンテンツの造成を市と連携し(一社)犬山市観光協会が中心となって進め、より強い来訪動機を持った観光客の獲得に結びつける必要がある。観光協会の組織体制の強化を検討する。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和4年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
観光を切り口とした「地域づくり」が進むよう、取組み内容を精査・充実させていくこと、及び観光が産業として成長すること。	収益事業の実施等、自主財源の確保に向けた取り組みを推進するなど、安定的な運営に向けた連携・指導を行う。加えて持続可能な観光地を目指した「観光まちづくり」推進の中核となるよう、地域での存在感を増していくよう期待する。

令和4年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	294

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	観光客誘致
事業目的	(一社) 犬山市観光協会と連携した観光プロモーション等の宣伝活動の実施、各種協議会との協働による広域での観光PR活動等を通じて犬山観光の価値と魅力を高めるとともに、ブランドイメージを向上させ、全国から犬山への観光誘客を図る。特に首都圏・関西圏のお城イベント等での認知度向上と誘客を進める。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○観光誘客宣伝活動の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋鉄道(株)、犬山市観光協会と連携し年間(上期・下期)を通じた観光宣伝活動を実施。 ○まつり・催事の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・犬山祭保存会等と連携し犬山祭を実施。秋には犬山祭宣伝事業としてからくりまち巡りを実施。夏には各務原市等が加入する実行委員会形式により「日本ライン夏まつりロングラン花火」を実施。 ○キャラバン等による観光宣伝の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋駅など近傍を中心に地誘客活動実施。 ○地域連携、広域連携による観光宣伝の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・県、各種協議会、他市町との連携による観光宣伝、集客イベントを実施。 ○国内、国外の観光客の受入に関する体制の構築とおもてなし事業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・城下町を中心に交通誘導體制を整え周辺道路の混雑緩和と円滑な観光客の誘導を実施。 ・訪日外国人誘客の取組みはコロナの状況を注視しつつ、本格的な回復後の誘客に繋がる取組みを実施。 ○シェアリングエコノミーの活用推進 <ul style="list-style-type: none"> ・犬山市観光協会と連携しシェアエコの仕組みを活かし体験観光メニュー造成を推進。 ●主な決算の内訳 <ul style="list-style-type: none"> ・犬山城下町交通誘導警備委託料 22,220,660円 ・各協議会等負担金 38,298,087円(飛騨木曾川、国宝城郭都市、犬山集中大規模等) ・催事補助金 350,000円(桃太郎あゆまつり催事)
事業の成果・効果	令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響が収まりつつあり、犬山祭や日本ライン夏まつりといった市内催事を開催することができた。また訪日外国人観光客の受入に係る水際対策が緩和されたり、全国旅行支援が実施されたりするなど、観光事業の再開に向けた動きが活発となった。こうした状況の変化に伴い次年度以降のインバウンド及び国内観光需要の回復に向けて、積極的な誘客宣伝活動を実施することができた。

II : 個別事業内訳

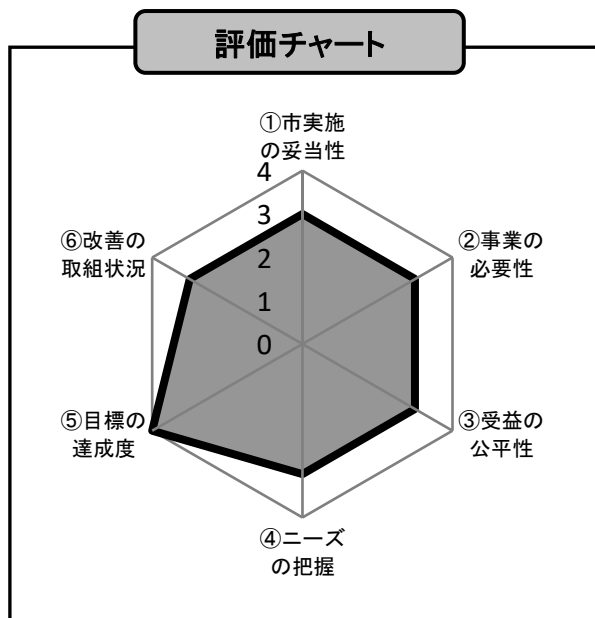
(単位: 千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
観光客誘致	63,951	58,739	5,212	8%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	63,951	58,739	5,212	8%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R3決算	R4決算	R5予算
		43,984	63,951	89,481
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	10,965	58,739	39,204
	一般財源	33,019	5,212	50,277
一般財源の割合		75%	8%	56%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	観光客を呼び込むだけでなく、住民が誇れるまちづくりに資する取組みが必要であり、市が主体となって実施することが望ましい。
②事業の必要性	3	観光振興による市域全体の活性化を目指すことで、市民が広く益を享受するものであり、事業継続の必要性がある。
③受益の公平性	3	観光客を誘致し交流人口が増えることで、市内における消費活動が活発に行われ、市域での経済的効果をもたらし、市民全体に恩恵がある。
④ニーズの把握	3	観光プロモーション参加店舗説明会にて意見交換を行うなど、ニーズと課題の把握を行っている。また、シェアリングエコノミー活用推進事業で担い手・利用者から聞き取りを行うなど課題把握に努めている。
⑤目標の達成度	4	前年度に比べ予定していた宣伝事業の多くを実施することができた。また城下町地区を中心に来訪者も増えるなど、観光需要の高まりが見られた。
⑥改善の取組状況	3	コロナ禍からの回復期において、事業の妥当性、経済性、安全性、持続可能性等を考慮しつつ、今後は本格的な回復を念頭におき持続可能な観光振興を展開していく。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和4年度に見直しを実施した事項	社会経済の状況に応じた誘客宣伝の実施、催事の再開に向けた実施方針の変更などを適宜行うことで、切れ目のない犬山市への観光誘客を実現した。
令和5年度に見直しを実施している事項	既存の観光資源やコンテンツを再精査するとともに新たなコンテンツ造成を進める。誘客宣伝についても年間を通じたプロモーションを実施することで、切れ目なく魅力ある観光地づくりを図る。
今後見直しを検討する事項	市及び観光協会自らが、新たにコンテンツ造成を進めるとともに、市民や企業などとも連携したコンテンツ造成を図る。城下町地区を中心に混雑や渋滞を緩和し円滑な交通誘導を図るため、警備員の適正な配置を行う。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和4年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
各事業の実施内容精査。広域連携の効果的な実施内容の検討。城下町を中心とした持続可能な観光まちづくりの推進。	広域連携に関しては犬山市の強みを活かした取組みを中心に進めていく。観光まちづくりについては、市、観光協会をはじめ各団体、民間事業者とも連携して持続可能な仕組みを検討した上で役割分担も整理し取組みを推進する。

令和4年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	292

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	観光案内所運営
事業目的	観光案内所の適正な管理運営と案内機能を充実させることにより、観光客へのおもてなしと満足度を高める。
事業内容	<p>●主な事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・犬山駅及び犬山城前の2カ所の観光案内所を通年で開設。来訪者に対して正確で丁寧な観光案内を実現を図った。 ・運営は観光振興に関する知見とノウハウを豊富に有する犬山市観光協会に対し委託業務として発注。国内外からのお客様に対し適切に対応。安定的な管理体制を実現できた。 <p>●主な決算の内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・犬山観光案内所運営委託料 19,952,218円（犬山駅、城前）
事業の成果・効果	観光客を迎える玄関口として犬山駅及び城前の2箇所で見守り案内所を設置し運営している。新型コロナウイルス感染症対策は終息した訳ではないため引き続き拡大防止の対策は継続しているが、徐々に緩和され、来訪者数も増加している。また、外国人観光客も徐々に増加しており、多言語対応も含めた適切なおもてなしを実現し来訪者の満足度向上に努めている。

II : 個別事業内訳

(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

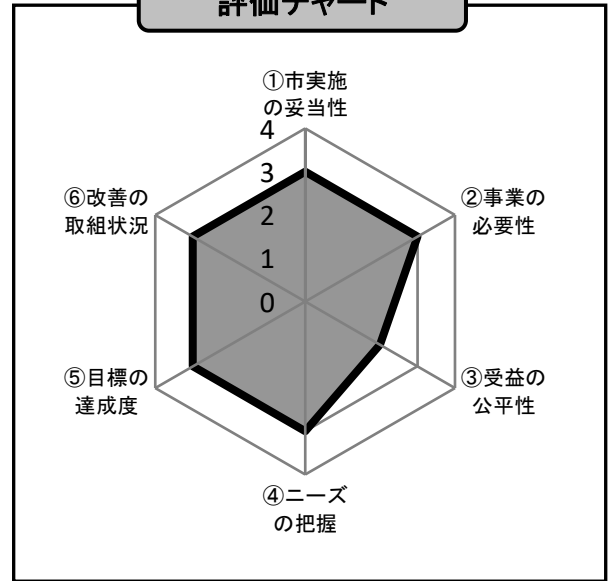
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
観光案内所運営	20,125	20,125	0	0%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	20,125	20,125	0	0%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R3決算	R4決算	R5予算
		19,903	20,125	20,549
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	19,903	20,125	20,549
	一般財源	0	0	0
一般財源の割合		0%	0%	0%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	観光客の玄関口にもなる観光案内所は、観光地には必須であり、情報発信の場として市が主体として実施する必要がある。
②事業の必要性	3	観光都市犬山として、観光振興は必要な事業である。その中で観光の玄関口となる案内所の運営は、ストレスなく快適な観光を実現するため、必須である。
③受益の公平性	2	観光案内所を訪れるのは、多くが観光客であるものの、市民も参加するイベントや、市民・観光客に関わらない多様な情報発信を行っており、市民も恩恵を受けている。
④ニーズの把握	3	2つの観光案内所には観光客からの多くの意見・提言が寄せられ、その都度、市、協会の双方で共有し対応し改善に努めている。
⑤目標の達成度	3	丁寧な対応や接客を常に意識し、観光客だけでなく、訪れる方の満足度の向上を図ることができている。
⑥改善の取組状況	3	観光客に対する玄関口だけでなく、今後は今以上に、市民も広く活用できる場としての位置づけも検討が必要である。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和4年度に見直しを実施した事項	城前観光案内所内、多目的スペースにおいて観光型観光メニューの開催場所として夏と春に設定し実施した。従来のインターネットを介した申し込みだけでなく、偶然訪れた来訪者が直接申し込みするなど、新たな誘客と利活用の可能性を図ることができた。
令和5年度に見直しを実施している事項	令和5年度も引き続き、多目的スペースを体験型観光メニューの開催場所として設定することで、観光案内所が情報発信の場としての役割だけでなく、観光コンテンツをお客様により身近に提供できる場としての機能を有することができるよう、仕組みづくりを進める。
今後見直しを検討する事項	城前観光案内所では、情報発信・提供、休憩など、多様な機能を有した観光交流拠点として更に充実させていく。特に城下町から河畔、市域に点在するテーマパーク、その他自然資源へのアクセスが円滑にできるよう、自転車、タクシー等も含めた移動拠点としての機能を充実させていく。また多目的スペースの活用により市民の活躍の場としての機能も確立していきたい。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和4年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
新たな観光コンテンツの造成に関連して、より多くの市民の方が活躍できる仕組みを構築すること。	観光案内所は情報発信・提供、休憩機能など多様な機能を有しており観光客の利便性と満足度向上に資する施設として役割を担っているが、今後は魅力的で何度も訪れたい観光地となるため、「体験できる場」としての機能も確立していく必要がある。

令和4年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	292

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	観光施設管理
事業目的	観光トイレ、園地等広場、及び観光案内看板等の維持管理を適正に行うことで、来訪者の満足度を高めるとともに、観光地としてのイメージを向上させる。
事業内容	<p>●主な事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各案内看板の適正な維持補修及び管理 <ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した看板等を修繕し来訪者の安全と利便性を高めた。 ○各観光トイレの定期的な清掃及び維持補修管理 <ul style="list-style-type: none"> ・観光トイレ等を通年で清掃等の維持管理を行うことで清潔さを保ち、観光客の利便性を高めた。 ・破損等が生じたトイレの維持補修を実施。 ○観光施設の除草剪定等の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・観光施設の除草剪定作業を定期的実施し、施設の適切な維持管理を実現。 <p>●主な決算の内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公衆便所、観光施設等修繕料(丸の内緑地トイレ他) 1,584,990円 ・観光施設除草剪定業務委託料 2,409,000円 ・観光施設の巡回清掃及び公衆便所の清掃管理業務委託料 8,390,750円 ・栗栖下公衆トイレ洋式化改修工事請負費 299,200円
事業の成果・効果	観光客へのおもてなしとして、観光施設の適切な維持管理は必須である。清掃や除草剪定等の日常の維持管理はもちろんのこと、トイレの不具合等への迅速適格な対応のほか、劣化が進んだ案内看板は順次修繕を実施するなど、適正に管理を行うことができた。

II : 個別事業内訳

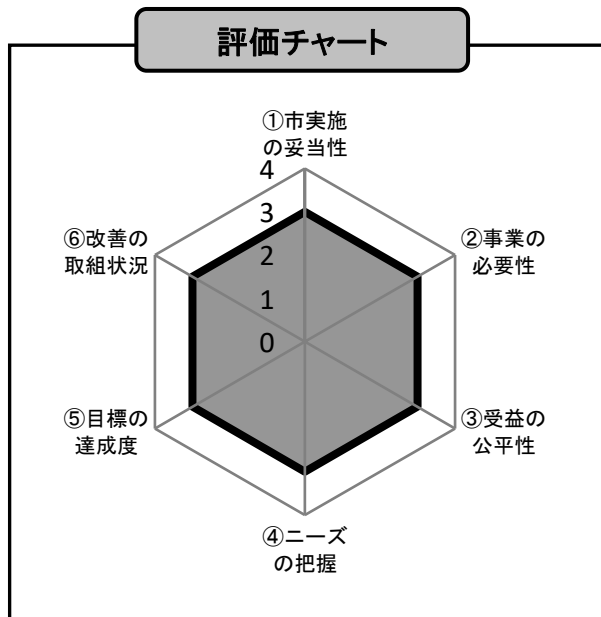
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
観光施設管理	16,094	16,094	0	0%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	16,094	16,094	0	0%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R3決算	R4決算	R5予算
		16,222	16,094	21,051
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	16,222	16,094	21,051
	一般財源	0	0	0
一般財源の割合		0%	0%	0%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	公共施設として観光客の旅の利便性確保のため主体的に実施する必要がある。
②事業の必要性	3	観光都市犬山として、観光振興は必要な事業であり、施設の適正な維持管理など受け入れ環境の充実が必要である。
③受益の公平性	3	トイレをはじめとした公共施設は、観光客だけでなく、市民の利用も多く、誰もが活用可能である。観光駐車場利用者には料金を徴収しており、受益者負担を適切に実現出来ている。
④ニーズの把握	3	施設利用者や観光関係者、施設受託者等から意見を求めるなど、ニーズを常に把握し進めている。
⑤目標の達成度	3	公衆便所等の観光施設は維持管理及び計画的な洋式化を順次行っている。
⑥改善の取組状況	3	事業の妥当性、経済性等を常に考慮しながら、観光施設の管理・運営を実施している。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和4年度に見直しを実施した事項	令和4年度は、彩雲橋トイレの老朽化による建て替えが終了し、木曽川河畔、ホテルインディゴ犬山有楽苑などと調和した高質な空間づくりに寄与することができた。
令和5年度に見直しを実施している事項	犬山市が進める公衆トイレの洋式化計画に基づき、観光課所管の公衆トイレについても順次洋式化を進める。 案内看板については、次年度は経年により老朽化した市内ウェルカム看板（木津宮前外計4箇所）のリニューアルを予定。自動車で犬山を訪れる方に利便性をもたらすとともに、観光都市犬山のイメージ向上を図る。
今後見直しを検討する事項	看板や公衆トイレ等、老朽化が進む施設も多く、快適なおもてなし環境を構築するために、効率的効果的な更新・修繕を実施していく。そのために、優先順位と必要性を十分精査し計画・実践を進めていく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和4年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
施設の計画的かつ効率的な更新。財源の安定的な確保、効果的な受け入れ環境整備の検討と設定。	適切な施設の維持管理を実現するためには、日常的な維持管理や点検等、効率的な運営を進める必要がある。老朽化に対する対応など、計画的に実施していく。また、管理者である職員の経験値を全体的に高めるとともに、ノウハウが共有できるような仕組みを構築していく。

令和4年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	296

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	観光事業振興基金積立金
事業目的	将来の観光振興に係る経費の一部を積立し、一時的に多額の費用が必要となる事業が発生した場合に活用する
事業内容	<p>●主な事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○観光事業振興基金への積立 <ul style="list-style-type: none"> ・犬山温泉に係る入湯税の一部を基金の財源として積み立てる。 ○観光事業振興基金の取り崩し <ul style="list-style-type: none"> ・観光振興に一時的に大きな費用が生じる場合において、基金の一部を取り崩して活用。 ※令和4年度は彩雲橋公衆トイレ改築工事請負費に活用。 ※入湯税が確定した後、補正予算対応。
事業の成果・効果	観光事業振興基金は、入湯税の一部を基金として積み立て観光施設の建設費用や観光施策に関する事業費に役立てている。令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響から回復しつつある状況の中で入湯税は微増となった。なお令和4年度においては、彩雲橋公衆便所の改築工事により基金の取崩しを行った。

II : 個別事業内訳

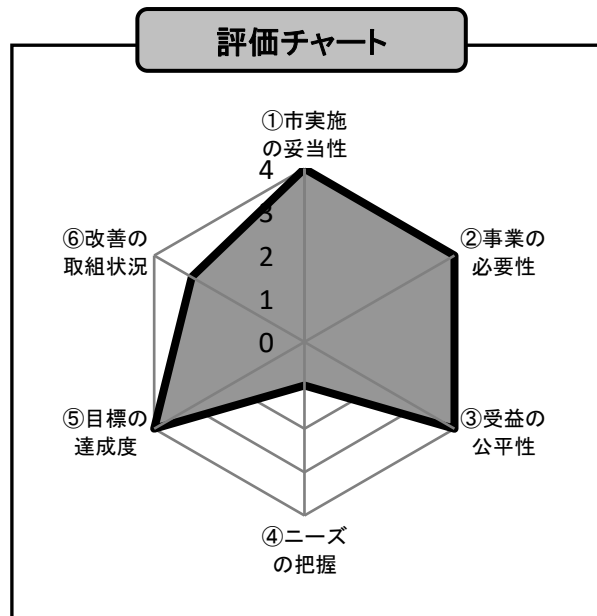
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
観光事業振興基金積立金	745	745	0	0%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	745	745	0	0%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R3決算	R4決算	R5予算
		585	745	1
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	585	745	0
	一般財源	0	0	1
一般財源の割合		0%	0%	100%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	条例で規定しており、市が将来において必要な観光事業に活用可能な財源確保の手法として必要な事業である。
②事業の必要性	4	計画的に基金として積み立てておくことで、経済危機等の状況であっても、必要な設備等への投資が可能となり、継続的な観光振興のため、実施の必要がある。
③受益の公平性	4	基金の使途として、近年の事業として観光案内所やトイレ整備等に用いており、観光客だけでなく、広く市民に恩恵のある事業である。
④ニーズの把握	1	基金の使い道は市民及び観光客のニーズの高い事業に投じるものであるが、基金の積み立てそのものはニーズ把握をする性質のものではない。
⑤目標の達成度	4	基金運用、活用を効率的、効果的に行い、成果を得ている。
⑥改善の取組状況	3	特になし

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和4年度に見直しを実施した事項	令和4年度は、彩雲橋公衆トイレの老朽化に伴う改築工事を実施。ホテルインディゴ犬山有楽苑や木曾川河川空間に調和した、高質化されたトイレ整備に基金を活用することができた。
令和5年度に見直しを実施している事項	令和4年度、国道41号線の6車線化に伴い案内標識を再設置する事業費に基金を活用する予定であったが、国の全体工事の遅延により令和5年度へ予算の繰越明許を行い、活用する予定。
今後見直しを検討する事項	基金に計上する財源として、入湯税だけでなく、観光駐車場使用料など他の収入を含めることも検討する必要がある。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和4年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
継続的な積立と安全で効率的な運用を図る必要がある。	令和4年3月に開業したホテルインディゴ有楽苑やその他、温泉施設より徴収している、入湯税の将来的な税額の見直しなども含めて、検討していく必要がある。

令和4年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	296

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	木曽川うかい事業費特別会計繰出金
事業目的	「木曽川うかい」を犬山の伝統文化として、保存伝承すると共に、犬山の観光資源として活用する。
事業内容	<p>●主な事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○木曽川うかいに係る観光宣伝 <ul style="list-style-type: none"> ・各務原市との協力体制を強化し、木曽川観光(株)とも連携することで、各地での宣伝活動を実施。 ○鵜の飼育管理 <ul style="list-style-type: none"> ・鳥インフルエンザ対策なども含め、鵜の健全な管理と飼育を行う。 ○鵜匠の育成(男性3名の正規職員、女性1名の観光協会職員) <ul style="list-style-type: none"> ・犬山の伝統漁法、木曽川の観光資源として継続していくため、取組み体制について継続して検討する。 ○船頭の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・伝統漁法の保存継承に欠かせない船頭に関し、次代を担う人材を継続して育成する。 ○屋形船(若あゆ丸)の改修 <ul style="list-style-type: none"> ・市が所有する屋形船の改修を実施。高単価・高付加価値商品の造成を図る。 ※繰越明許により完成は令和5年度とした。 <p>●主な決算の内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木曽川うかい事業費特別会計繰出金 48,572,000円
事業の成果・効果	「木曽川うかい」は犬山が誇るべき貴重な文化財であり、重要な観光資源である。鵜飼観覧者数は、令和4年は新型コロナウイルス感染症の影響から回復傾向にあること、比較的天候にも恵まれたことから、前年比279%増の13,750人となったが、コロナ前の令和元年に比べると約70%に留まっている。船頭育成事業については、引続き訓練を実施することができ、木曽川うかいの保存・継承のための取り組みの成果はあった。

II : 個別事業内訳

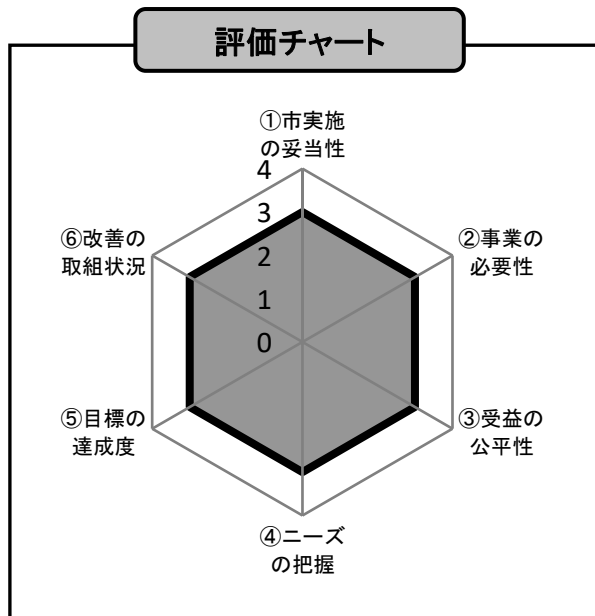
(単位: 千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
木曽川うかい事業費特別会計繰出金	48,572	48,572	0	0%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	48,572	48,572	0	0%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R3決算	R4決算	R5予算
		52,919	48,572	59,046
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	52,919	48,572	59,046
	一般財源	0	0	0
一般財源の割合		0%	0%	0%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	市指定の文化財である木曾川鵜飼漁法について、保存継承していくものであり、市が主体的・継続的に実施すべきものである。
②事業の必要性	3	市指定の文化財である木曾川鵜飼漁法について、保存継承していくものであり、経済状況に関わらず継続的に実施すべきものである。
③受益の公平性	3	市民のまちへの誇りを高めるとともに、郷土への愛着醸成に寄与する事業であり、市民全体に関わりのある取組みである。
④ニーズの把握	3	市民鵜飼などの実施により、市民により身近に感じてもらえる鵜飼を目指し、毎年実施している。令和4年度も多くの方にご応募いただきニーズがあると認識している。
⑤目標の達成度	3	船頭育成事業については、継続的に実施し、鵜舟の船頭である、とも乗り中乗りともに成長している。木曾川河畔の活性化にも鵜飼は貢献し、城下町地区から木曾川河畔への誘客にも貢献している。
⑥改善の取組状況	3	事業の妥当性、経済性等を考慮し実施している。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和4年度に見直しを実施した事項	市所有の屋形船である「若あゆ丸」の高質化を目指す改修を開始（完成は令和5年6月）。完成後は屋形船の魅力向上と新たな川遊びの提供を進めていく。
令和5年度に見直しを実施している事項	屋形船（若あゆ丸）の改築を契機に、鵜飼観覧を始めとする川遊びの高質化を進める。令和5年度は認知度向上の為、木曾川観光(株)、観光協会とともに、積極的な営業を行う。これにより市の財源確保と木曾川うかひのブランド力の向上を図る。
今後見直しを検討する事項	鵜舎を始めとした施設の老朽化に伴う更新検討、鵜匠の後継者問題など、木曾川うかひ事業の保存・継承・活用のため、見直し、改善すべき事項は多くある。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和4年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
鵜舎や仮小屋、うかいトラックなどのハード面の老朽化に伴う更新、鵜匠・船頭など後継者についてのソフト面での課題など。	木曾川うかひは市の貴重な文化財であり、重要な観光資源である。今後も継続して発展する為には、鵜舎の建替えなど、施設の適切な更新が必要であり、随時実施していく。また、鵜匠の後継者の課題については、今後5年の間に方向性を定めることとしており、雇用・育成の在り方も含め検討を進める。

令和4年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	292

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	観光駐車場管理						
事業目的	キャッスルパーキングと内田観光駐車場を一体的に管理運営することで、城下町エリアに訪れる観光車両を効率的に受け入れるとともに、利用料による自主財源の確保を図る。						
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○キャッスルパーキングと内田観光駐車場の一体的な管理運営。 <ul style="list-style-type: none"> ・キャッスルパーキング及び内田観光駐車場を効率的に運営。 ・キャッスルパーキング満車時には内田観光駐車場へ誘導し混雑緩和を図るなど適切に管理。 ・混雑時には内田多目的広場を利活用し利用料を得て自主財源確保に努めた。 ●主な決算の内訳 <table style="margin-left: 20px; border: none;"> <tr> <td>・印刷製本費（駐車券）</td> <td style="text-align: right;">496,320円</td> </tr> <tr> <td>・観光駐車場管理業務委託料</td> <td style="text-align: right;">26,116,860円</td> </tr> <tr> <td>・修繕料</td> <td style="text-align: right;">244,200円</td> </tr> </table> 	・印刷製本費（駐車券）	496,320円	・観光駐車場管理業務委託料	26,116,860円	・修繕料	244,200円
・印刷製本費（駐車券）	496,320円						
・観光駐車場管理業務委託料	26,116,860円						
・修繕料	244,200円						
事業の成果・効果	城下町地区にある2か所の公共駐車場（キャッスルパーキング、内田観光駐車場）の使用料について、令和4年度は対前年比45.9%増となる過去最高の約105,500千円となった。駐車場の維持管理及び運営については、周辺の交通渋滞や混雑を緩和するため、受託事業者と連携し、観光車両の円滑な誘導を行うことで、地域住民の生活への影響を軽減することに努めた。						

II : 個別事業内訳

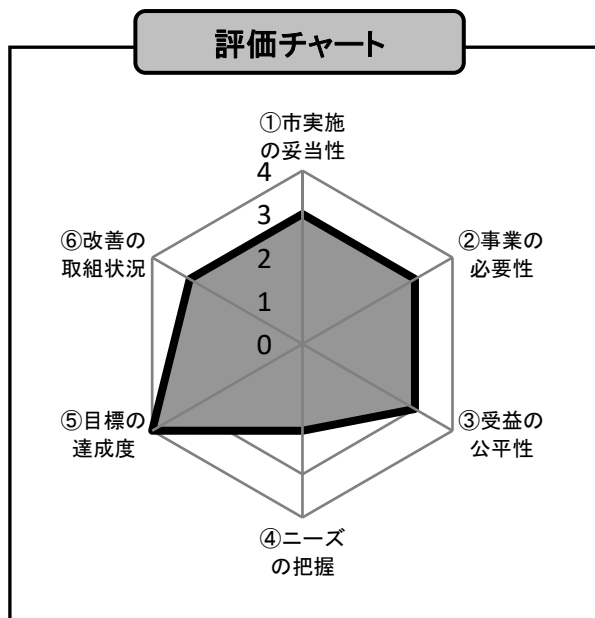
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
観光駐車場管理	28,281	28,281	0	0%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	28,281	28,281	0	0%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R3決算	R4決算	R5予算
		27,371	28,281	31,876
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	27,371	28,281	31,876
	一般財源	0	0	0
一般財源の割合		0%	0%	0%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	受け入れ環境を整備し、観光客の旅の利便性確保のため、主体的に実施する必要がある。
②事業の必要性	3	観光都市犬山として、受け入れ環境の整備は必要な事業である。また、渋滞緩和や混雑改善のため、地域住民への生活支障を少しでも軽減させるため、施設の整備は必須である。
③受益の公平性	3	渋滞緩和等の交通状況の改善を図り、周辺住民への影響を軽減させることになり、必要な事業である。また駐車場利用者には料金徴収し、受益者負担を適切に実現している。
④ニーズの把握	2	観光客(利用者)や観光関係者等から意見を求めるなど、ニーズを常に把握し進めている。
⑤目標の達成度	4	コロナ禍からの本格的な回復だけでなく、コロナ以前の水準に達しており、利用者数は増加傾向である。
⑥改善の取組状況	3	事業の妥当性、経済性等を常に考慮しながら、観光施設の管理・運営を実施している。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和4年度に見直しを実施した事項	令和4年度に、次年度の契約事務の内容を検討した際に、駐車場業務の管理運営マニュアルを再考し、より正確且つ効率的に業務を行えるよう精査することができた。
令和5年度に見直しを実施している事項	マニュアル等運用体制の精度を高めることで、繁忙期など混雑時の対応を今まで以上に的確かつ円滑に実施し利用者の満足度を高める。
今後見直しを検討する事項	キャッスルパーキング及び内田観光駐車場、市役所駐車場が連携し円滑な誘導体制を構築する必要がある。特にGWや紅葉時期など繁忙期に適切に誘導できるよう更なる運用精度の向上を図る。またシェア駐車場など他の手法も研究検討し、利用者の利便性を高めるとともに観光客・住民の双方が共存できる観光地を目指す。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和4年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
繁忙期における渋滞時の周辺地区住民への影響を最小限に抑える適切な対応の検討・実施。	駐車場管理は安定的な収益と適切な運営がある程度実現できている。しかしながら、ピーク時の適切な対応方法など、改善すべき点も多いため、引続き受託者等と十分な協議を行い、更なる改善を図る。

令和4年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	294

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	観光戦略
事業目的	犬山市観光戦略（R3年度末策定完了）に計上した各施策を推進するとともに、進捗状況を確認し、PDCAサイクルの中で事業が確実に推進できるような体制と仕組みを構築する。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●実施概要 <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度：犬山市観光戦略に記載の重点事業等各施策の検討及び実施。 ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○観光戦略の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・重点事業等各施策の検討及び実施、各種調整及びマッチングの取組みを推進。 ○観光まちづくり会議の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・観光を切り口とした課題解決に向けた取組みの実施。 ●主な決算の内訳 <ul style="list-style-type: none"> ・観光戦略推進業務委託料 299,200円 （名古屋経済大学による観光施設でのアンケート調査）
事業の成果・効果	犬山市観光戦略（R3年度末策定完了）に計上した各施策を推進するとともに、進捗状況を確認し、PDCAサイクルの中で事業が確実に推進できるような体制と仕組み構築を図っている。

II : 個別事業内訳

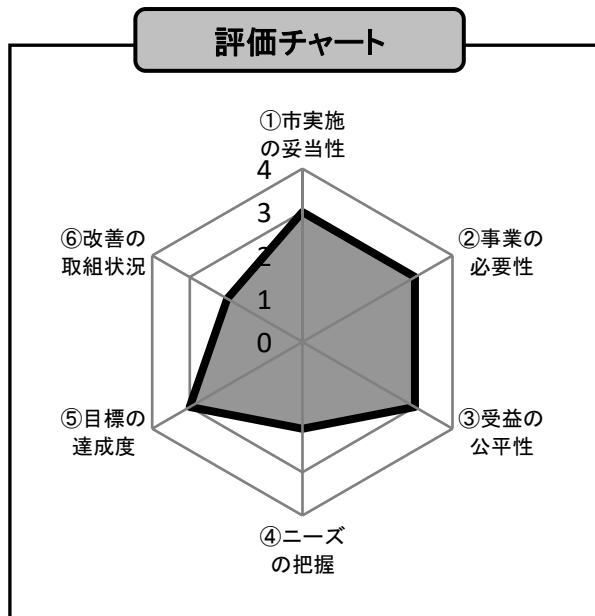
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
観光戦略	300	0	300	100%	2	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	300	0	300	100%	2	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R3決算	R4決算	R5予算
		7,656	300	180
財源内訳	国県支出金	3,814	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	3,842	300	180
一般財源の割合		50%	100%	100%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	本市が策定した犬山市観光戦略であり、関係部署・機関と協議や連携しながら展開していく必要がある。
②事業の必要性	3	持続可能な観光まちづくりを実現するため、有識者等に評価・検証を受けることで犬山市観光戦略のPDCAサイクルを着実に推進していく必要がある。
③受益の公平性	3	市民にとって郷土への愛着醸成及び本市の観光資源の磨き上げに資する取組みである。
④ニーズの把握	2	犬山市観光戦略の策定時に観光客へのアンケート調査及び位置情報データを活用した調査を実施し、ニーズの把握に努めている。
⑤目標の達成度	3	進捗把握の為、附属機関である観光戦略会議を令和5年8月に実施する予定。
⑥改善の取組状況	2	事業の妥当性、経済性等を考慮し実施している。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和4年度に見直しを実施した事項	令和4年3月に策定した犬山市観光戦略の初年度であり、実施事業ごと内容の精査に努めた。
令和5年度に見直しを実施している事項	犬山市観光戦略に基づき、各事業はPDCAサイクルの中で適宜見直し、検証を行う。また令和5年度には附属機関である犬山市観光戦略会議を開催予定であり、戦略に計上した事業について状況と進捗の把握及び助言提言を受ける場を設けることとしている。
今後見直しを検討する事項	犬山市観光戦略に基づき、各事業がPDCAサイクルの中で適宜精査され、推進できるような体制と仕組みを構築できるよう定期的な検証の機会を設ける。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和4年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
観光戦略の課題の一つである「観光客と住民の調和・共存」の為の取組みを住民、事業者、団体等も巻き込みながら推進する必要がある。	令和4年3月に策定した犬山市観光戦略の各施策を推進するとともに、進捗状況を確認し、PDCAサイクルの中で事業が確実に推進できるような体制と仕組みを構築して持続可能な観光まちづくりを実現する。

令和4年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	294

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	木曾川河川空間活性化						
事業目的	木曾川河畔の栗栖地区及び内田地区のそれぞれにおいて整備等の取組みを進め、木曾川河川空間の価値と質を高めることにより、市民及び観光客が楽しむことができる、賑わいと憩いの場を形成する。また、整備等により新たな価値と利益を生み出すことを目的とする。						
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●主な事業内容 ○栗栖園地南側の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・木曾川河川敷内、栗栖園地南側の土地の造成（整備工事）と一部芝生貼りを実施。 ○彩雲橋公衆便所の改築 <ul style="list-style-type: none"> ・彩雲橋公衆便所改築設計及び改築工事 ○木曾川河畔遊歩道の調査検討 <ul style="list-style-type: none"> ・木曾川河畔遊歩道調査委託（現況測量、可能性調査、実証事業、地域住民とのワークショップ） ●主な決算の内訳 <table style="margin-left: 20px; border: none;"> <tr> <td>・栗栖園地整備工事請負費</td> <td style="text-align: right;">7,887,000円</td> </tr> <tr> <td>・彩雲橋公衆便所改築工事請負費</td> <td style="text-align: right;">29,994,800円</td> </tr> <tr> <td>・木曾川河畔遊歩道調査委託料</td> <td style="text-align: right;">13,090,000円</td> </tr> </table> 	・栗栖園地整備工事請負費	7,887,000円	・彩雲橋公衆便所改築工事請負費	29,994,800円	・木曾川河畔遊歩道調査委託料	13,090,000円
・栗栖園地整備工事請負費	7,887,000円						
・彩雲橋公衆便所改築工事請負費	29,994,800円						
・木曾川河畔遊歩道調査委託料	13,090,000円						
事業の成果・効果	木曾川河畔の栗栖地区及び内田地区において栗栖園地整備、彩雲橋公衆便所改築、木曾川河畔遊歩道調査などを実施したことにより、木曾川河川全体における価値と質を高め、美しい景観と良好な河川空間形成の実現に向けた事業を展開することができた。						

II : 個別事業内訳

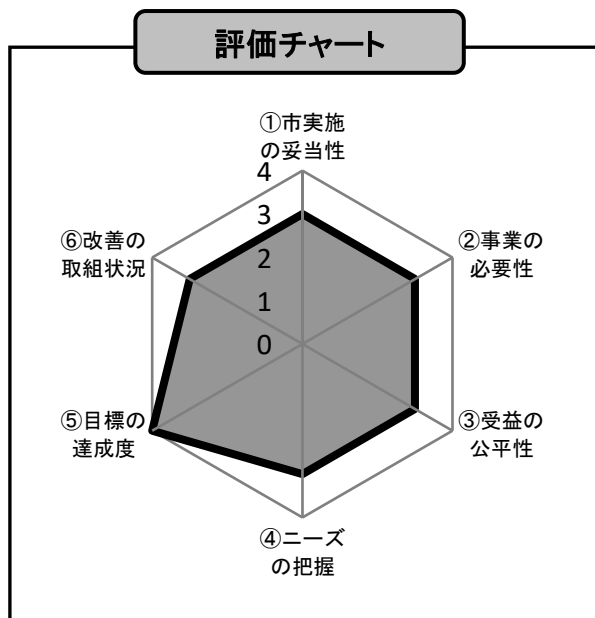
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
木曾川河川空間活性化	53,934	24,994	28,940	54%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	53,934	24,994	28,940	54%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R3決算	R4決算	R5予算
		-	53,934	3,454
財源内訳	国県支出金	-	3,000	3,000
	地方債	-	0	0
	その他	-	21,994	0
	一般財源	-	28,940	454
一般財源の割合		-	54%	13%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	河川の占有者は犬山市であり、河川敷内の維持管理及び事業展開を市が適切に実施することで良好な河川空間の形成が実現すると考える。
②事業の必要性	3	新しい河川空間の形成により、郷土への愛着醸成及び本市の観光資源の磨き上げ、賑わい創出に資する取組みである。
③受益の公平性	3	市民のまちへの誇りを高めるとともに、郷土への愛着醸成に寄与する事業であり、市民全体に関わりのある取組みである。
④ニーズの把握	3	ワークショップ及び芝張り体験を実施する中で、市民の意見の収集が実現している。市民参加型の取組みとなることでニーズの把握にも努めている。
⑤目標の達成度	4	栗栖園地整備、彩雲橋公衆便所改築、木曽川河畔遊歩道調査における基本構想の策定はいずれも目標に達している。
⑥改善の取組状況	3	事業の妥当性、経済性等を考慮し実施している。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和4年度に見直しを実施した事項	栗栖園地整備、彩雲橋公衆便所改築、木曽川河畔遊歩道調査はいずれも令和4年度に開始した新たな取組みである。
令和5年度に見直しを実施している事項	栗栖園地整備、木曽川河畔遊歩道調査については令和4年度に実施した内容を踏まえ、令和5年度も実施内容を精査しながら事業を展開していく。
今後見直しを検討する事項	木曽川河畔遊歩道の整備については、国を始めとした関係機関との協議や地域住民との意見交換を進めながら、美しい景観と良好な河川空間形成を実現できるよう整備方針や施工方法、さらには管理方法等についても検討を実施していく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和4年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
木曽川河畔遊歩道の整備は河川内かつ道路であることから整備方針や施工方法、さらには管理方法等についても関係機関との協議を進めていく必要がある。	木曽川河畔遊歩道の整備については、犬山城下町周辺の観光ルートの回遊性を高めるために市民及び観光客にとって、郷土への愛着醸成及び本市の観光資源の磨き上げに資する非常に重要な施策である。美しい景観と良好な河川空間形成を実現できるよう様々な実証事業を展開するとともに、市民との意見交換も踏まえ効果を測りながら推進していく。

令和4年度 決算説明書 / 事業評価シート

企業会計名	決算書(P)
木曽川うかい事業費特別会計	452

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	木曽川うかい事業
事業目的	「木曽川うかい」を犬山の伝統文化として、保存伝承すると共に、犬山の観光資源として活用する。
事業内容	<p>●主な事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○木曽川うかいに係る観光宣伝 <ul style="list-style-type: none"> ・各務原市との協力体制を強化し、木曽川観光(株)とも連携することで、各地での宣伝活動を実施。 ○鵜の飼育管理 <ul style="list-style-type: none"> ・鳥インフルエンザ対策なども含め、鵜の健全な管理と飼育を毎日行う。 ○鵜匠の育成(男性3名の正規職員、女性1名の観光協会職員) <ul style="list-style-type: none"> ・犬山の伝統漁法、木曽川の観光資源として継続していくため、取組み体制について継続して検討を行った。 ○船頭の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・伝統漁法の保存継承に欠かせない船頭に関し、次代を担う人材を継続して育成した。 ○屋形船(若あゆ丸)の改修 <ul style="list-style-type: none"> ・市が所有する屋形船を改修を開始(完成は令和5年6月)。 <p>●主な決算の内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飼料費 3,224,800円 ・鵜飼保存・活性化事業委託料 3,689,510円 ・鵜舟・屋形船出船業務委託料 9,664,490円 ・屋形船(若あゆ丸)高質化業務委託料 3,465,000円
事業の成果・効果	「木曽川うかい」は犬山が誇るべき貴重な文化財であり、重要な観光資源である。鵜飼観覧者数は、令和4年は新型コロナウイルス感染症の影響から回復傾向にあること、比較的天候にも恵まれたことから、前年比279%増の13,750人となったが、コロナ前の令和元年に比べると約70%に留まっている。船頭育成事業については、引続き訓練を実施することができ、木曽川うかいの保存・継承のための取り組みの成果はあった。

II : 個別事業内訳

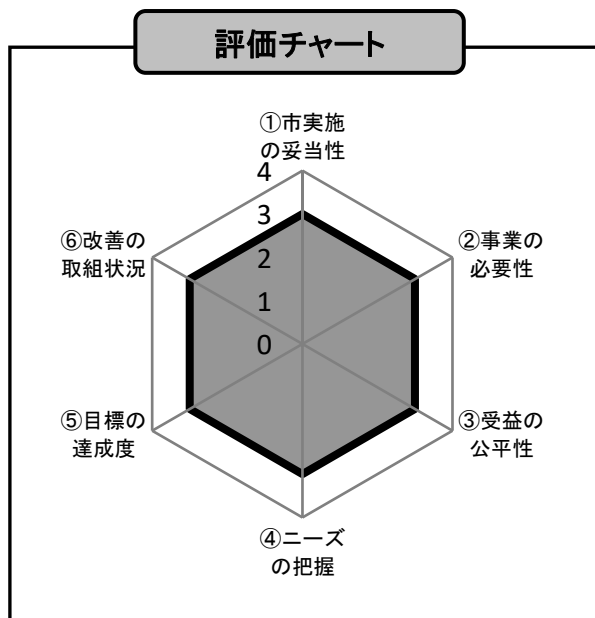
(単位:千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
一般管理	26,244	26,244	0	0%	3	3	3
予備費	0	0	0	-	0	0	0
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	26,244	26,244	0	0%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R3決算	R4決算	R5予算
		23,146	26,244	32,912
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	23,146	26,244	32,912
	一般財源	0	0	0
一般財源の割合		0%	0%	0%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	市指定の文化財である木曾川鵜飼漁法について、保存継承していくものであり、市が主体的・継続的に実施すべきものである。
②事業の必要性	3	市指定の文化財である木曾川鵜飼漁法について、保存継承していくものであり、経済状況に関わらず継続的に実施すべきものである。
③受益の公平性	3	市民のまちへの誇りを高めるとともに、郷土への愛着醸成に寄与する事業であり、市民全体に関わりのある取組みである。
④ニーズの把握	3	市民鵜飼などの実施により、市民により身近に感じてもらえる鵜飼を目指し、毎年実施している。令和4年度も多くの方にご応募いただきニーズがあると認識している。
⑤目標の達成度	3	船頭育成事業については、継続的に実施し、鵜舟の船頭である、とも乗り中乗りともに成長している。木曾川河畔の活性化にも鵜飼は貢献し、城下町地区から木曾川河畔への誘客にも貢献している。
⑥改善の取組状況	3	事業の妥当性、経済性等を考慮し実施している。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和4年度に見直しを実施した事項	市所有の屋形船である「若あゆ丸」の高質化を目指す改修を開始（完成は令和5年6月）。完成後は屋形船の魅力向上と新たな川遊びの提供を進めていく。
令和5年度に見直しを実施している事項	屋形船（若あゆ丸）の改築を契機に、鵜飼観覧を始めとする川遊びの高質化を進める。令和5年度は認知度向上の為、木曾川観光(株)、観光協会とともに、積極的な営業を行う。これにより市の財源確保と木曾川うかひのブランド力の向上を図る。
今後見直しを検討する事項	鵜舎を始めとした施設の老朽化に伴う更新検討、鵜匠の後継者問題など、木曾川うかひ事業の保存・継承・活用のため、見直し、改善すべき事項は多くある。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和4年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
鵜舎や仮小屋、うかいトラックなどのハード面の老朽化に伴う更新、鵜匠・船頭など後継者についてのソフト面での課題など。	木曾川うかひは市の貴重な文化財であり、重要な観光資源である。今後も継続して発展する為には、鵜舎の建替えなど、施設の適切な更新が必要であり、随時実施していく。また、鵜匠の後継者の課題については、今後5年の間に方向性を定めることとしており、雇用・育成の在り方も含め検討を進める。